

市民プレス

平成31年
(2019年)
7月5日
第85号

発行人 「市民フォーラム」
編集人 原 昭二
制作 デジタル工房
TEL 090(3048)5502
〒353-0004
埼玉県志木市本町2-4-3

E-mail
hara@camelianet.com



市民の目線で市民が発信する地域情報紙

WEB SHIMIN
<http://shimin.camelianet.com>

「市民プレス」電子版(無料)を公開しました
<http://pr-shimin.camelianet.com>
電子書籍専用のアプリケーション等でお読み下さい。

CONTENTS

- PAGE 1
旧制高等学校とは・・・
個人的な体験談 - 「入学式」と自治体制の寄宿「武原寮」
- PAGE 2
寮生活が始まって・・・
昭和十九年(1944)は終戦の前年のことになる。サイパン島の玉砕 東京大空襲
- PAGE 3
寮歌を唱う・・・
ポツダム宣言の受諾 ソ連軍の進攻 マッカーサーが日本に到着
- PAGE 4

旧制高等学校の 最後を見届けて・・・

旧制高等学校は戦前の教育制度で、旧帝国大学の予科として存在し、華麗なエリートを輩出した。その由来は、明治十九年(1886)に公布された中学校令で、八校(東京の「第一」、仙台の「第二」、京都の「第三」)のほか所謂「ナバースクール」が設立され、のちに高等学校に移行した。

第一次世界大戦の好景気に沸く日本は、工業力が発展して、帝国大学の増設、定員増が求められる。大正九年(1920)のころ、官立の高等学校二十校、中等、高校を合わせた私立の七年制が発足した。

旧帝大の定員は、当初、旧制高校の卒業生の人数と略々同数だったので、卒業生は学科を選び好みを選ばなければ、各地の帝大にストレートに進学できる特権があった。従って受験勉強に青春時代を費やす必要が無く、有り余る時間とエネルギーを全て精神的・肉体的成長の為に注ぎ込むことができた。

旧制高校生のスタイルは、白線帽・高下駄・黒マント・手拭の弊衣・破帽スタイルに身を

包んで街を闊歩し、「デカンショ」と略されたデカルト・カント・ショーペンハウヘルの必読哲学書を読んでは思索を深め、議論することを楽しみ、酌量しては友と肩を組んで、各校に伝わる寮歌を放吟した。又、ストームと呼ばれる狂乱の騒ぎで青春の力を爆発させ、「ゲル」(お金)「ゾル」(兵隊)「メツチェン」(女子「ドッペル」(留年する)等のドイツ語由来の独特の旧制高校用語を多用し、「白線生活」と呼ばれるバンカラの三年間を過ごした。

但し、新設された私立の七年制高等学校は、紳士を養成する英国のパブリックスクールを模範とし、スマートな校風で官立高校のバンカラ主義とは一線を画していた。

戦後の学制改革と共に、「旧制高校」化の魅力は、日本からすっかり失われてしまったが、今なお、その文化的な側面に惹き付けられる人々は少なくない。

「旧制高校」システムの力点は、所属の文理を問わず、古文漢文・外国語・文学・哲学・倫理学・論理学・歴史学等のいわゆる「教養」(リベラルアーツ)を幅広く学んで人格を涵養し、将来、各分野のリーダーとしてのバックボーンを形成することにあつた。

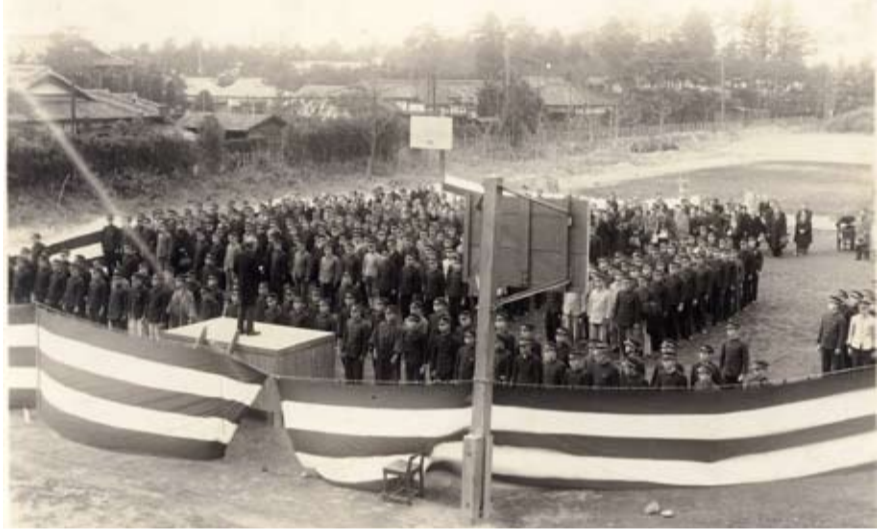
時は、太平洋戦争の敗色が漂う昭和十九年(1944)、すなわち、終戦の前年のことである。

本紙編集人の原は、埼玉県浦和市に所在する県立「浦和中学校」から西方となる、「北浦和の向かい側に在った、旧制「浦和高等学校」に入学した。四月初頭、戦時下であったにも拘らず、青春のモラトリアムにときを過ごすことができた。

一周すると400米の広いグラウンドの一面で入学式が行われた。校庭の赤松が、校舎を囲み、二階建て、六棟もの学寮に入居する、全寮制の学園生活が始まった。

入寮のイベント・・・

指定された学寮の部屋に、布団などの寝具と、日用品を運び込む。扉を開けると左右、確かに六畳の部屋に分かれ、一年上級の室長を加えて、三名づつが入室した。辺りが何となく騒がしくなる。マントを冠ったり、お面を付けたら、悪魔風を装った上級生のお迎え・・・所謂ストームの襲来である。



入寮式 昭和19年4月1日 歓迎寮歌「城北十里」の高唱で



入寮歓迎晩餐会



赤松に囲まれた校舎の群像



創立期の鳥瞰図



寮生活が始まって・・・

同室の友人で、一番若かったものが、剥ぎ取られて素っ裸にされる。私と並んで寝る筈の友人は、当時、清朝(のちには中国となる)からの租借地だった関東州、大連から、遙々朝鮮半島を縦断して、日本列島に上陸、なぜか浦和高校を目指したのである。しかし、戦時中の混乱のため、荷物一切が着荷する気配は全く無かった。事情を聞いた悪魔さんは、私に命令した。お前の寝具は立派過ぎる！

彼のために、半分差し出せ！、と英語のテキストには・・・

good by chips (チップス先生さようなら) が選ばれた。当時英語は敵国語だったので、旧制高校の入試科目には入っていないかった。しかし、入学後には、一転して主要科目となる。

米国とその連合国の攻勢は激しさを増し、健康であれば、何時徴兵されるかは目前に迫る、という雰囲気だったので、講義は高度のスピードで進められ、四月に開始されたチップス先生は、六月には完読して、学期のテストを迎える。

寮の同僚には、成績なんて問題にするな、と投げつけるものあり、一方では、布団を被って音読するものあり、だったが、教室で、丁度隣席になる太田君は、私とタグを組むカンニングの計画を持ち掛けてきた。テキストを前後に分割し、私が前半を受けもち、彼は後半を精読して、答案を遣り取りする、というものだった。しかし、必勝を期した作戦だったが、もうまくも敗れ去る。というのは、試験監督の先生は、まるで戦術を熟知されていたのか、太田君の席近くを離れなかった。そして、テスト

『武原寮』のベランダは 大事な思索のスペース



は全部、前半から出題されたので、私の答案はほぼ正解だったが、答案用紙を太田君と遣り取りすることは不可能に終わった。

ドイツ語の講義は、文法で始まり、ich bin, du bist, ihr seid, (私は、君は、貴方は)、英語の be 動詞の変化を、声高く読み上げる。さて、次の授業では、先生から指名された小菅君が立ち上がり、復唱する。声高く、ich bin, ich bin, ich bin, は繰り返された。しかし、du bist には一向に進まない。時間は経っても先生は待つだけで、助けは皆無、以後、イッヒピンは、小菅君のニックネームとなる。

信じ難い能力の持ち主・・・

もう一人の友人、彼は、なんと、何時でも、頼まれれば、方を揺すって起こしてくれる。自分は眠る時間がいつたあるのか？ 誰もが不審をもった。後で分かったことだが、子供のときから、家族も無く、孤独で、新聞配達の入で暮らし、学校にも行かれなかったらしい。自力で、高校に進学する資格を取得した。苦勞人である。



『武原寮』西二寮一階の部屋で



西二寮「機甲班」のメンバー



「機甲班」の部屋前で 機甲とは・・・ 自転車からオートバイ、四輪車まで分解と組立て

昭和十九年(1944)は終戦の前年のことである。

二月、米軍は太平洋に浮かぶマーシャル群島に上陸、日本軍守備隊は敗退、東條英機首相は、人心を一新するため、内閣改造。

三月、インド北東のインパールを目指した陸軍の作戦では、悲惨な敗北を喫した。

四月 五月

六月、連合国軍は、イタリアのローマを占領し、ノルマンディー上陸作戦を開始。

日本では、米軍がサイパン島に上陸、マリアナ沖海戦で、日本海軍の空母機動戦力を喪失した。閣議は、学童疎開を決定。

七月、日本軍守備隊は玉砕。東條内閣、閣内不一致とサイパン失陥の責任を取り、内閣総辞職。米軍、グアム島に上陸、つづいてテニアン島に上陸する。

八月、学徒勤労令、女子挺身勤労令公布。連合国軍、パリを占領。シャルル・ド・ゴール、パリ入城。重要工場に疎開命令。

九月

十月、フランクリン・ルーズベルト米大統領は、駐ソ米国外交を介してスターリンソ連首相に対日参戦を提案。兵役法施行規則が改正公布され、満17歳以上の男子を兵役に編入(11月1日から実施される)。

レイテ沖海戦(10月23~25日) アメリカは、日本軍の侵攻によってフィリピンを失ったが、十一月

二十四日、第一回の東京空襲

二十七日、二十九、三十日へと続く。

十二月

昭和二十年、一月となり、敗色は一段と濃厚になる。

国際的な動向を見詰めていた

近衛文磨が上奏文を起草し、二月、天機奉伺を名目に参内して、昭和天皇に上奏文(近衛上奏文)を捧呈する。

公爵近衛文磨は、若くして政治家を志し、昭和十二年、1937年には、総理大臣の指名を受けた人物である。当時、険しい陸海軍人に囲まれ、優柔不断な行動を余儀なくされたが、常に新体制を模索してきた。昭和十五年(1940)、左右合同の組織として、大政翼賛会をつくって初代総裁を務め、さらに、第二次三次近衛内閣をも率いた。

しかし、敗戦を意識し始めた文磨は、陸海軍人であっても、平和を求めて外交に結び付けようとする人々に接触しつつ、ついに意を決して、天皇に上訴するに至った。

二月

三月九日から十日

東京大空襲が開始され、十三日には、大阪の空襲が始まる。

小磯内閣が、蒋介石の率いる重慶との工作のために招いた、繆斌が来日。十七日、日本軍は硫黄島で玉砕。神戸大空襲。繆斌、東久邇宮稔彦王と会談。「国民義勇隊組織二関スル件」閣議決定、国民義勇隊創設。小磯首相、繆斌工作について上奏。翼賛政治会が解散し、大日本政治会(総裁、南次郎陸軍大将)が結成される。

四月一日、アメリカ軍が沖縄本島に上陸。五日、重臣会議。後継内閣について協議。ソ連が日本に対して、日ソ中立条約を延長しないことを通告。七日、海軍が建造した史上最大の戦艦大和が沈没。八日、大本営陸軍部は、本土作戦計画を策定。

十五日、吉田茂が終戦工作を問われ、東部憲兵隊司令部に逮捕される。

ヨーロッパでは、二十五日、ドイツのエルベ川で、ソ連軍と米軍が合流(エルベの誓い)した。サンフランシスコ会議が開催され、六月まで続く。イタリア社会共和国が崩壊し、ベニート・ムッソリーニ首相らは逃亡、愛人クラウラ・ペタッチとともに逮捕されて銃殺される。三十日、アドルフ・ヒトラー独裁自殺。

五月 ソ連軍はベルリンを占領、七日、ドイツは無条件降伏。

日本では、最高戦争指導会議構成員の会合が数回開催され、終戦のための対ソ連交渉について討議される。

六月、廣田弘毅元首相が、箱根強羅ホテルで静養中の駐日ソ連大使を訪問。六日、昭和天皇臨席の最高戦争指導会議で指導大綱を採択、九日から始まった臨時議会で、国民義勇隊を創設する義勇兵役法などの戦時特別法案が提出されて成立。鈴木貫太郎首相が本会議で行った演説について、議員の質問を受け、議事が紛糾した(天罰発言事件)。二十二日、御前会議で、昭和天皇は最高戦争指導会議構成員に対して終戦の決意を表明。

七月、十日、最高戦争指導会議が開催され、ソ連に特使の派遣を決定、十二日、鈴木首相、木戸幸一内大臣を通じて、昭和天皇から直接、近衛公に対してソ連特使の下命を願ひ出る。近衛公は参内して昭和天皇からソ連特使就任を命ぜられ、受諾。東郷外相は、佐藤尚武駐ソ日本大使を通して近衛特使派遣を急報した。十三日、佐藤駐ソ大

昭和十九年	一月
	二月
	三月
	四月
	五月
	六月
	七月
	八月
	九月
	十月
	十一月
	十二月

武蔵が原 大正十二年度寮歌

一 武蔵が原の末遠く 櫟林に闇落ちぬ
煙は低く雲迷ひ 夜は陰惨と暮れ行けど
地に聳り立つ松の幹 陽に赤々と燃ゆるかな

二 燃ゆる思に胸溢れ 櫟林の奥に湧く
泉掬ふと分け入れど 迷羊遂に術もなく
丘辺に立ちて嘶けば嘯けば 頬紅に染まるかな

三 道渾沌と闇深く 夕づく星の影もなし
いざや彼方の丘の上 薄紅に匂ひ出し
聖き光を懐かしみ 己が古巣に帰りなん

四 嗚呼滾々と湧き出づる 泉の美酒を掬ひつゝ、
今宵ぞ明き灯の下に 互ひに酌まん友や誰れ
友よ腕を差し出せ 一葉緑我にあり

五 葉盃溢れ滴れば 膝に乱る、夜の花
泉の美酒の甘くして 愉楽の契果知らず
三年の月日泡沫と 消えんも淡き夢の寮

六 夜咲く花の落散りて 六寮闇も深き時
樹陰を忍ぶ月影ぞ 若き眠りの胸に射す
君よ聞かずや硝子戸に 夜を啜り泣く郷愁

作詞 藤倉 寛三
作曲 諸井 三郎

昭和三年寮歌

春

春の調のときめきに 微笑む花を積みみせて
夢にまじろむ佐保姫の 玉の輿来ぬ瑤沙原
縹の空に揚雲雀 繚爛の野に舞う誇張
情操のゆたけき若人は 花を梅の草枕
草に五月の香せば 棟の緒琴は高鳴りて
真紅に燃ゆる想あり

嗚呼此の野辺に並び立つ 若き心の憩屋は
春永遠の国なれや 春とこしへの国なれや

校歌

一 大いなるかな武蔵野は 天の紺碧地の緑
渺茫として果もなし あゝ人生の朝にして
自由の翼音高く 理想の国を天翔ける
我等に何ぞふさわしき 大いなるかな天地
大いなるかな我等

二 美しいかな武蔵野は このもかものもに桜草
繚乱として乱れ咲く あゝ人生の晴にして
シンの血潮色若く 至純の郷にあこがるゝ
我等に何ぞふさわしき 美しいかな天地
美しいかな我等

三 壮なるかな武蔵野は 秩父嵐のひたよせに
颯々として渦を巻く あゝ人生の戦に
久遠の勝を制すべき 力の戦士義の勇士
我等に何ぞふさわしき 壮なるかな天地
壮なるかな我等

静高遠征歌

一 杜鵑血に鳴く時五月 花橋も打ち香り
心の駒の勇むかな 若武者立ちて原頭に
睥睨するや関八州

二 武蔵が春は深うして 人月に戯れつ
歡樂の夢覚めぬ時 悍馬に当つる鞭一つ
原頭翔くる人や誰れ

三 嗚呼燦爛と陽は沈む 瑤沙が丘の夕まぐれ
治世に乱を忘れざる 健兒六百集ひては
如何なる覇業か成らざらん

四 筑波風しの吹き荒れて 醜草靡く武蔵野に
今健剛の敵もなし 脾肉に歎く若武者が
大拳襲ふや西の国

五 今鎧袖の一触に 絢爛の夢に酔ひしれし
敵を碎かん時は来ぬ 嗚呼我舞はん勝鬪を
処は駿河山は富士

作詞作曲者不明

使はソ連外務省を訪ねる。十七日、ポツダム会談。二十五日、原爆投下の日程が正式に決定される。二十六日、ポツダム宣言が発表される。翌日、外務省は、ポツダム宣言について検討。東郷外相ら外務省首脳は、同宣言の全面受諾に賛成。東郷外相が参内し、ポツダム宣言について言上。二十八日、最高戦争指導会議情報交換会の後、鈴木首相が、新聞記者会見で「ポツダム宣言を黙殺」と発言。
八月初旬、東京新橋の片山哲弁護士事務所原彪、鈴木文治らが社会主義政党政結について会合。六日、ポツダム会談終了し、同日午前8時15分、米軍が広島市に原子爆弾を投下。八日、深夜ソ連が日ソ中立条約を破棄、日本に宣戦布告。九日未明、ソ連軍が満州に侵攻、対日参戦開始。同日、午前、ポツダム宣言の受諾の可否について最高戦争指導会議が開かれる。午前11時02分、米軍が長崎市へ原子爆弾投下。十日、ポツダム宣言の受諾の可否について御前会議が開催され、未明、御前会議で「国体の護持」を条件に日本のポツダム宣言の受諾を決定、連合国側に向けて打電する。
十一日、ソ連軍が日ソ国境を越えて南樺太に侵攻する。十三日、最高戦争指導会議・閣議は紛糾したが、十四日 午前11時、昭和天皇が御前会議でポツダム宣言受諾の意思を表明。午後9時、ラジオで「15日正午より重大発表あり」という旨の放送。午後11時、ポツダム宣言受諾を連合国側に通知。
午後11時20分、昭和天皇が玉音放送を録音。
二日 東京湾上の戦艦ミズーリ艦上で、重光葵外相、梅津美治郎参謀総長らが降伏文書に調印(第二次世界大戦終結)。GHQ指令第一号(SCAPIN-1)で、陸海軍解体・軍需工業停止などを命令。
三日 ホー・チ・ミンを主席とするベトナム民主共和国が成立。
四日 マッカーサー元帥、北緯38度線を境とした米ソによる南北朝鮮の分割統治を発表(連合軍軍政期)。
五日 ウェーク島の日本軍が降伏。
六日 トルーマン米大統領、「降伏後における米国の初期の対日方針」を承認。
七日 鳩山一郎、芦田均、河野一郎、斎藤隆夫ら交詢社で会合。
八月 朝鮮人民共和国が建国宣言(1日に互解)。
九月 トルーマン米大統領、「降伏後における米国の初期の対日方針」を承認。
十月 文理で転科が認められる。
十一月 新関良三校長赴任。
十二月 授業終了。

Timeline table with dates from January to December and corresponding historical events.